

# 第3学年国語科学習指導案

日 時 平成22年6月24日(木) 5校時  
児 童 男子6名 女子1名 計7名  
指導者 教諭 遠藤 公

- 1 単元名 まとまりに気をつけて読もう  
教材名 ありの行列(説明的文章)

## 2 単元について

### (1) 児童について

児童はこれまでに第2学年で説明的文章「たんぼぼのちえ」「さんごの海の生きものたち」を学習し、時間的な順序、事柄の順序などを考えながら内容の大体を読むことを学習してきている。3年生になってからは、文学的文章「キツツキの商売」を通して、内容の中心や場面の様子を読み取り、その様子が聞く相手に伝わるように音読をする学習をし、書かれている事柄の順序や場面の様子に気付いたり、想像を広げたりしながら読む力を高めてきている。また、「ヤドカリのすみかえ」の学習を通して、指示語や接続語によって文章がどのようにつながっているかを考えたり、段落の相互の関係を考えたりしながら読む力も少しずつ高めてきている。

しかし、中心文的確にとらえ、要点をまとめる力や、段落相互の関係をとらえ、文章全体の内容を自力でつかむ力はまだまだ十分ではない。

そこで本単元では、中心となる語や文をとらえながら文章の構成を考え、要点をまとめ内容を整理することのできる力を身に付けさせたい。ここで、身に付けさせたい読みの力とは「C 読むこと」(2)の①「イ 目的に応じて、中心となる語や文をとらえて段落相互の関係や事実と意見との関係を考え、文章を読むこと」ができる力である。また、目的に合わせた読み方に気付くことで、説明的な文章にとどまらず、観察文などの読書の幅を広げる意欲に結び付けたい。

### (2) 教材について

小学校学習指導要領国語科における第3学年および第4学年の目標は「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読む能力を身に付けさせるとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」ことである。

「ありの行列」は、論説的要素を含んでいながら、対象が児童に身近な「あり」であること、そして、取り上げられている「問い」も日常目にすることのできる行列であることから、児童にとっては受け入れやすい内容になっている。文章構成は、問題提起—実験・観察、研究—結論の展開になっている尾括型の説明文である。問題を提示し、それを解明するための実験・観察から考察(仮説)が述べられ、それに基づく研究から、結論を導き出している。研究過程を述べる基本的な文章の展開であり、指示語や接続語、文末表現を手がかりにして、文章構成をつかむことが容易にできる教材である。中学年がねらいとする、まとまりに気を付けながら中心となる語や文をとらえる学習を展開するには適した教材と考える。

### (3) 指導について

本単元「ありの行列」では、段落の要点を押さえながら、叙述に即して内容を読み取ることができるよう力を身に付けさせることを目標とする。

指導に当たっては、第一次では、単元の学習のまとめとして生き物図鑑を作ることを知らせる。そのために、この「ありの行列」の学習を通してどんなことができるようになるかならなければならぬかを考えさせるため、短く要点をおさえたまとめ方をしている文章と、長く要点をおさえていない文章の2つを提示し、その文章の構成を考える活動から見通しをもつ。

第二次では、段落の中心になる語や文をもとに段落ごとの要点をまとめる活動を行う。児童の実態から、キーワードを手がかりにして大切と考えられる文を探すことはできるが、その中から

中心文を指摘すること、さらに、言葉を補って要点をまとめることはまだ難しい。そこで、実験の結果を表した絵を並べ替えたり、書かれてある文と対比させたりさせながら実験の内容のイメージをつかませ、その活動を手がかりにしながら、中心となる文を絞り要点をまとめさせる。

第三次は、図鑑から選んだ自分が紹介したい生き物について書いてある文から必要な情報を取り出し、要点をまとめて友達に伝える活動を行う。多くの図鑑は、3年生段階では読めない漢字や意味が理解できない言葉が多く出てくるため、自力ですべての活動ができるわけではない。ここでは、生き物の生活の様子の特徴について、事例を挙げて、短くわかりやすくまとめることをねらいとして活動を行わせる。

### 3 単元の目標

- 書かれている事柄に興味・関心をもち、いろいろな生き物の様子が書かれた文章を読もうとする。(関心・意欲・態度)
- 段落ごとの要点を正しくとらえ、叙述に即して内容を理解することができる。(読むこと)
- 指示語や接続語が文と文との意味のつながりを果たす役割を理解し、段落相互の関係をとらえる際に役立てることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

### 4 単元の指導計画と評価規準(10時間)

次	指導目標	時	主な学習活動	指導事項と言語活動	評価規準
第一次	・学習の見直しをもち、単元の学習の見直しをもつことができる。	1	○生き物についてまとめた文章を読み、内容をわかりやすくまとめている文章の構成を交流する。 ○生き物図鑑を完成させるためにできるようになりたい力を確かめる。	読カ 多様な目的に応じていろいろな分野の本や文章を読む。 <b>内容がわかりやすい文章の構成を考える</b> <b>生き物図鑑に載せたい項目を決める</b>	生き物図鑑を作ること に意欲をもっている。 (関心・意欲・態度)
第二次	・1の段落を読み、問いかけの文を見つけることができる。	2	○教材文を通読し、教材文から分かったことを書く。 ○段落分けをする。 ○1段落から問いかけの文章を探し、問題の提起をとらえる。	読イ 読む目的によって、内容を整理させる。 <b>絵カードを並べ替えて内容の大体をつかむ</b> <b>中心となる語や文に注目して要点をまとめる</b>	問いかけの文章を見つけ、それをもとに要点をまとめている。 (読むこと)
	・2～3の段落を読み、どんな実験からどんなことが分かったのかを読み取ることができる。	3	○絵カードを並べ替えて1つめの実験の結果を大まかにつかむ。 ○文と絵カードを対比させて観察したありの行動を読み取る。 ○ありが行列をつくることわかる中心となる文を探し、それをもとに2～3段落の要点をまとめる。	読イ 読む目的によって、内容を整理させる。 <b>絵カードを並べ替えて内容の大体をつかむ</b> <b>中心となる語や文に注目して要点をまとめる</b>	ありが行列をつくることわかる文をもとにして、要点をまとめている。(読むこと)
	・4の段落を読み、どんな実験からど	4	○絵カードを並べ替えて2つめの実験の結果を大まか	読イ 読む目的によって、内容を	ありが行列をつくることわかる文をもと

	んなことがわかったのかを読み取ることができる。	本時	につかむ。 ○文と絵カードを対比させて観察したありの行動を読み取る。 ○ありが行列をつくることがわかる中心となる文を探し、それをもとに4の段落の要点をまとめる。	整理させる。 <b>絵カードを並べ替えて内容の大体をつかむ</b> <b>中心となる語や文に注目して要点をまとめる</b>	に、要点をまとめている。(読むこと)
	・5～8段落を読みどんな研究からどんなことがわかったのかを読み取ることができる。	5	○中心文を探す。 ○5～8段落の要点をまとめる。	読イ 読む目的によって、内容を整理させる。 <b>中心となる語や文に注目して要点をまとめる</b>	中心文をとらえながら、研究の成果を読み取り、要点をまとめている。(読むこと)
	・問いに対しての答えの文を見つけることができる。	6	○中心文を探す。 ○9～10の段落の要点をまとめる。 ○1～10の段落の要点を確かめ、ありの行列全体の構成を確かめる。	読イ 読む目的によって、内容を整理させる。 <b>中心となる語や文に注目して要点をまとめる</b>	指示語や文末など文の意味のつながりを果たす役割を理解している。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)
第三次	・身近な生き物の生活の仕方の特徴について、事例を挙げてまとめ、生き物図鑑をつくることができる。	7	○自分が紹介したい生き物の	読イ 事実と意見の文を区別したり、記述の仕方の違いに気付かせる。 <b>事実と意見の語句、文、段落を取り出す</b>	本や事典に記述されてある文章から関心をもった生き物の特徴を短くまとめている。(読むこと)
		8	・文を読み、その生き物の特徴的な内容を読み取り、短く分かりやすくまとめる。		
		9			
		10	○自分がまとめた文章を发表し合う。 ○単元全体の振り返りをす	読オ 文章を読んで考えまとめたことを发表し合い、互いの感じ方や考え方の違いに気付く。 <b>発表会</b>	いろいろな生き物の発表に関心をもって聞いている。(関心・意欲・態度)

## 5 本時の指導 (4 / 10 時間)

### (1) 目標

ありの行動や「行列」をつくることがわかる文章から中心文をとらえ、要点をまとめることができる。(読むこと)

### (2) 具体の評価規準

A	B	指導の手立て
ありが行列をつくることが分かる文をもとに、言葉を補いながら要点を分かりやすくまとめている。	ありが行列をつくることが分かる文をもとに、要点をまとめている。	文と絵カードをもう一度対比させ、ありの行動を確かめ、ありが行列をつくる行動の絵カードから文を探させる。

### (3) 本時の指導事項

本時は、ありの実験・観察から分かった、ありが行列をつくる行動が書かれてある文を探し、要点をまとめる学習である。長い文章や段落の中から要点をまとめるためには、中心となる文を探し、

必要な言葉を補うなどしながら短く分かりやすくまとめる力が必要となる。

児童の実態から、接続語や指示語、時間を表す言葉、また文と文の関係から中心となる文を絞ることはまだ難しい。また、段落を構成する文の数が多くなると、内容の大体をとらえるのも難しい児童がいる。そのため、本時は、ありの行動、つまり実験結果のイメージをしっかりとつかませてから要点をまとめさせる必要がある。そこで、4段落に書かれてある実験の様子を絵カードを並べ替える活動を通してつかませる。そして、その絵カードと文を対比させながら、要点をまとめるために必要な中心となる文と必要ない文とを話し合いを通して選び、要点をまとめさせていく。

(4) 展開

段階	学習活動と主な発問・予想される児童の反応 主な発問 (○) 児童の反応 (・)	評価、留意事項 評価(*) 留意事項(・)
つかむ 5分	1 学習課題をつかむ。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">4 だんらくの要点をまとめよう。</div>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時と同じようにウイルソンの実験によってありの行列がどうなったのかが書かれてある文が大切になることを確かめる。</li> <li>・キーワードになりそうなことは「行列」であることも確かめる。</li> </ul>
さぐる 25分	2 4の段落の音読をする。  3 ウイルソンがどんな実験をし、その結果はどうなったのかを絵カードをつかって確かめる。  4 中心となる文を探す。 ○中心となる文にサイドラインを引きましょう。  5 中心文をもとにして4の段落をまとめる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実験の順序を確かめながら読むように伝える。</li> <li>・絵カードを並べ替え、実験の様子を確かめる。</li> <li>・絵カードを手がかりにしながら、ありの行列がどのようになっていくかについて書かれてある中心となる文を探させ、話し合いをして考えさせる。</li> <li>・まとめたら、絵カードを使いながら、自分で説明をして確かめさせる。</li> </ul> <p>*要点を適切にまとめている。(学習シート)</p>
ふかめる 10分	6 まとめた文章を全体で交流する。 ・ありの行く手をさえぎってみたら、石のところでもちりぢりになったが、まただんだんありの行列ができていった。 ・ありの行く手をさえぎってみたら、まただんだんありの行列ができた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お互いの文章を読み合い、短くまとめられたところや分かりやすくまとめられたところなどを交流し合う。</li> <li>・机間指導で、適切に言葉を補ってまとめた文章を書くことのできた児童を代表で発表させる。</li> <li>・児童の意見の中で不足している語や文は、絵を手がかりに教師が補足をする。</li> </ul>
まとめる	7 学習のまとめをする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">ありの行く手をさえぎっても、またありの行列はできていき、道すじはかわらない。</div>	

5 分	<p>8 学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ありが行列をつくる行動を表した文章をさがすことができました。</li> <li>・自分で言葉を付け足してまとめることができました。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時も合わせて、段落を簡単にまとめる時にわかったことや、自分ができたことを振り返らせる。</li> </ul>
--------	---	---

(5) 板書計画

ありの行列

大滝哲也

4だんらくの要点をまとめよう。

ウイルソンの実験

道すじに大きな石をおいて、ありの行く手をさえぎってみた。

絵

絵

絵

絵

ありの行列は、石のところのみだれて、ちりぢりになった。

まただんだんに、ありの行列ができていった。

帰るときも、行列の道すじはかわらない。

まとめ

ありの行く手をさえぎっても、またありの行列はできていき、道すじはかわらない。